

普及活動現地情報

「農業現場では、今」



【伊都振興局】重点プロジェクト【伊都地域の将来を見据えた担い手対策】
～農業技術講習会（果樹コース）第4回を開催～

令和6年8月号

和歌山県農林水産部経営支援課

（農業革新支援センター）

はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



< 目 次 >

| | 頁数 |
|--|------------|
| I 海草振興局 | 1-2 |
| 1. 「匠の技 伝道師」温州みかん栽培技術研修を開催 | |
| 2. 新規就農者の育成支援～技術・経営指導を実施～ | |
| 3. 果樹カメムシ防除啓発活動 | |
| 4. 水稻巡回調査 | |
| II 那賀振興局 | 3 |
| 1. 紀の川市4Hクラブが研修会を開催 | |
| III 伊都振興局 | 4 |
| 1. 重点プロジェクト【伊都地域の将来を見据えた担い手対策】 ～農業技術講習会（果樹コース）第4回を開催～ | |
| 2. 農業技術講習会（野菜コース）第2回を開催 | |
| IV 有田振興局 | 5 |
| 1. 有田地方農業士協議会と有田地方4Hクラブ連絡協議会が合同研修会を開催 | |
| 2. 有田農業技術者会でカメムシビーティング調査を実施 | |
| V 日高振興局 | 6 |
| 1. 日高野菜花き技術者協議会が総会を開催 | |
| 2. 令和6年度由良町農業士会第2回夏季研修会を開催 | |
| VI 西牟婁振興局 | 7 |
| 1. ストックの省力育苗実証試験に係る検討会を開催 | |
| VII 東牟婁振興局 | 8 |
| 1. 重点プロジェクト【いちご産地の維持活性化やる気のある産地づくり】 ～いちご育苗ほ場現地巡回を実施～ | |

I 海草振興局

1. 「匠の技 伝道師」温州みかん栽培技術研修を開催

8月21日、海南省海口市下津町内の「匠の技 伝道師」橋詰 孝氏の温州みかん園において、本年度2回目の栽培技術研修会を開催し、新規就農者ら17名が参加した。今回は摘果をせずに連年安定生産を実現する橋詰氏の重要な技術の一つである枝吊りについて研修を行った。

研修会では萩平普及指導員から本年の気象と生育概況の解説をしたあと、橋詰氏から枝吊りの実演を交えながら年間の栽培ポイントについても説明を行った。

橋詰氏からは「摘果しなくても安定生産できており、若木の畑は年を追うごとに収穫量が増えている」、「樹に仕事をしてもらおうと思えば肥料は十分にあげないといけない」、「新芽が出ていることが大前提。そのためにはせん定も大切」、「枝吊りは翌年の花芽をつけるためにも大切な作業」といった説明があった。

研修生からも積極的に質問があがり、活発な研修会となった。次回はせん定を中心とした研修会を予定している。



研修会の様子



樹体を前に説明

2. 新規就農者の育成支援～技術・経営指導を実施～

農業水産振興課では、新規就農者の農業技術や経営の向上を図るため、新規就農者を個別訪問し、栽培や経営での悩みについて助言を行っている。また、将来ビジョンについても、農業者と課題を整理し、計画作成の提案を行っている。

今回、いちじくを栽培している新規就農者から水分や温度管理について相談があり、現地に赴き聞き取りを行った。

新規就農者からは、「ハウス内の温度管理について勉強になった」、「今後は遮光に気を付けながら栽培していきたい」等の声があった。新規就農者が定着し、今後地域をけん引する存在になることを期待する。



新規就農者への技術指導

3. 果樹カメムシ防除啓発活動

農業水産振興課では、JAわかやま、JAながみねと共同で、管内10か所の山林に設置した誘引トラップにより、果樹カメムシ（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）の発生量を調査している。本年の果樹カメムシの誘引数は、5月3日の調査開始以降一貫して多く、7月下旬には平年の約4倍と非常に多く確認されたことから、当課では果樹カメムシの防除啓発チラシを作成した。作成したチラシは、管内農業者へ配布して、防除の徹底を呼び掛けた。農業者からは、「すでに複数回薬剤防除を行っているのに、使用できる農薬をまとめてくれているのは助かる」「防除の参考にさせてもらおう」といった声があった。

管内の果樹カメムシ発生量の調査結果は、海草振興局農林水産振興部のホームページで公開している。

(<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/130100/chiiki/nogyoshinko/kajyukamemushi.html>)

果樹カメムシ大量発生中
防除を徹底してください!

カメムシは、夜に樹皮や葉の裏側に集まり、果実を刺すことで被害を与えます。果実の被害は、果実の味や見た目に悪影響を与えます。また、果実の味や見た目に悪影響を与えます。また、果実の味や見た目に悪影響を与えます。

管内各ごまめに採取し、カメムシの早期発見に努めましょう!

平年の約4倍

作成した果樹カメムシ防除啓発チラシ

4. 水稻巡回調査

農業水産振興課では水稻の生産指導を的確に行うため、JAの協力のもと管内の水稻ほ場を巡回している。

出穂期を迎えるこの時期は、生育状況に加えて斑点米カメムシの発生状況も調査した。本年は晴天が続くこと、気温も高かったことから全体的に平年より早く生育が進んでいる。また、斑点米カメムシは多く見られたものの、水稻への被害は少なかった。

現在カメムシの被害が出ていないほ場でも晩生品種では今後被害が発生する可能性があるため、当課でも注意して観察するとともに農家への啓発を続けていく。

なお、農林水産省の発表によると和歌山県の作柄は平年並みであり、令和5年産米の流通量の減少や南海トラフ地震臨時情報の発表で起こった買いだめによる品薄は、新米が出るころには落ち着くと思われる。



生育状況確認

Ⅱ 那賀振興局

1. 紀の川市4Hクラブが研修会を開催

8月26日、紀の川市4Hクラブが、講師にナカスジファーム代表中筋秀樹氏を、発表補助者として（株）サハンジ伊東拓也氏を招き、「労働力の確保と人材の育成」についてオンライン研修会を開催し、会員と関係者13名が参加した。

中筋氏は、大阪府富田林市でなすときゅうりを生産する農家で、約40名の従業員を抱えており、自身の経営における従業員の育成と課題、また地域の取組として農家主体で運営する「きらめき農業塾」について説明があった。

参加者からは、「給与体系はどうしているか」、「独立志向の従業員の引き留め策は?」、「農業塾の運営のモチベーションは何か」など質問があり活発な情報交換の場となった。



オンライン研修会の様子

Ⅲ 伊都振興局

1. 重点プロジェクト【伊都地域の将来を見据えた担い手対策】

～農業技術講習会（果樹コース）第4回を開催～

8月28日、農業水産振興課では、農業の担い手育成と栽培技術の向上を目的にかきの栽培技術講習会を開催し4名が受講した。

講義では、はじめに森口普及指導員が、果実の着色に関する条件（気温、光、土壌中の肥料分）や、摘葉、不要な徒長枝の除去、反射マルチシート等の光条件改善による着色促進技術について説明した。その後、浅井普及指導員から、主にカメムシと炭そ病の防除について説明した。

現地実習は、九度山町のかき園で行い、両普及指導員が固形アルコールを用いた樹上脱渋、カラーチャートによる果皮色の判定方法等について実演しながらポイントを説明した。受講生は、各自で樹上脱渋の袋掛けを体験し、反射マルチシートの敷き方・時期に関する質問や「樹上脱渋のやり方を家でも話してみたい」との感想が挙げられた。

当課では、引き続き講習会（果樹）を実施（全5回）し、栽培指導を行っていく。



講義の様子



かき園での現地研修の様子

2. 農業技術講習会（野菜コース）第2回を開催

8月30日、農業水産振興課では、農業の担い手育成と栽培技術の向上を目的に農業技術講習会を開催し、5名が受講した。

はじめに、農業水産振興課の山田主査が秋冬作野菜の栽培管理について講義を行い、アブラナ科野菜（キャベツ、はくさい、ブロッコリー）の特性や栽培方法、根こぶ病やヨトウムシ類等の病虫害防除について説明した。また、にんじん、たまねぎ等の根菜類の栽培ポイントについても説明した。続いて浅井普及指導員から、農作業中の熱中症対策や農薬の安全・適正使用について説明した。

実習では、ブロッコリー「改良緑炎」とキャベツ「松波」の種子を用意し、育苗のためのセルトレイへの培土の詰め方、かん水、播種、覆土等について実演を交えながら説明した。受講者は、播種に関する一連の作業を体験し、播種後の管理方法や育苗培土についての質問を行っていた。

当課では、引き続き講習会（野菜）を実施（全3回）し、栽培指導を行っていく。



講義の様子



ブロッコリーの播種体験

IV 有田振興局

1. 有田地方農業士協議会と有田地方4Hクラブ連絡協議会が合同研修会を開催

8月19日、標記研修会を開催し計55名(農業士28名、4Hクラブ員8名および関係者19名)が出席した。振興局で開かれた第一部では、FROM FARMの大谷氏から「援農への取り組み」として、農産物加工品の製造販売、みかん援農、カフェ経営等の産地活性に関する講演があった。次に、日産化学㈱により、「ラウンドアップの省力化技術」について解説された。その他、農業共済組合の植西氏から「収入保険」、間佐古普及指導員から「クビアカツヤカミキリ」、「有田のみかん産地の再編整備」の説明が行われた。

第二部は湯浅町内の現地園で行われ、雨の中「シールディングマルチ(Sマルチ)で温州みかんの高品質生産」に取り組む武内園と極晩生温州みかん「あおさん」を育成した湯川園を見学した。

参加者からは、援農者の始めた頃と近年の変化、ラウンドアップの処理方法、収入保険の仕組み、クビアカツヤカミキリの防除対策、Sマルチでの水管理、「あおさん」の鳥害対策等に関する質問があった。



援農への取り組み 大谷氏



Sマルチ 武内園



あおさん 湯川園

2. 有田農業技術者会でカメムシビーティング調査を実施

8月26日、有田農業技術者会(会長:間佐古普及指導員)の構成員8名によりカメムシビーティング調査を実施した。有田農業技術者会は、JAありだ、JAグループ和歌山農業振興センター、NOSA Iわかやま中部支所、有田川土地改良区、有田中央高校、近畿大学附属農場湯浅農場、県果樹試験場、有田振興局農業水産振興課の技術者で構成され、有田地方の農業の発展・振興を目的に活動している。本年度の調査は、温州みかんなどの果実を加害するカメムシ類3種を対象に、広川町と有田川町のスギ・ヒノキの山林10カ所で実施した。

調査で確認されたカメムシの頭数は平年並みであり、非常に発生量の多かった昨年の2割ほどであった。技術者会では台風10号によるカメムシの発生に注意するとともに、予察灯への飛来数を確認しながら二回目の調査を検討する。



山本技師によるビーティング調査



調査で捕獲されたチャバナアオカメムシの幼虫

V 日高振興局

1. 日高野菜花き技術者協議会が総会を開催

8月8日、JA紀州、県農業試験場暖地園芸センター及び日高振興局農業水産振興課の野菜・花き技術職員で組織する日高野菜花き技術者協議会（会長：濱田光弘氏）は、日高川町のかわベテニス公園で令和6年度総会を開催した。

同協議会は、野菜・花き技術者の資質向上と日高地方の野菜・花き栽培の発展に寄与することを目的に、講習会や現地検討会の開催、栽培技術の改善や流通・消費動向に関する調査研究等の活動をしている。

会議では、令和6年度の活動計画としてハウス実えんどうの病害対策や光丸うすいの導入推進、スターチスの赤葉対策などを決定した。

また、野菜・花きに関する現状と課題について協議を行い、その中から15課題を県への研究テーマ要望としてとりまとめた。

2. 令和6年度由良町農業士会第2回夏季研修会を開催

近年、かんきつ栽培農家では、鳥獣害対策や経営規模拡大により労力負担が増加し、除草作業に十分手が行き届かない場合が多くなったため、除草作業の省力化を望む声が、会員から多くあがっていた。

そこで、由良町農業士会（会長：濱野一宏氏）では、8月27日、日産化学（株）の農薬、除草剤担当者を講師に招き、同町役場及び現地において「効率的な農薬散布の方法」に関する研修会と実演会を行い、会員を中心に9名が参加した。

参加者からは、「実際農薬を使用している立場から農薬の効果に関する感想や要望を伝えられたことは、大変有意義であった」とや「新たな除草剤散布方法を体験できたことで、散布の感覚をつかむことができた」との声が聞かれた。



メーカーによる講演



除草剤散布実演会

VI 西牟婁振興局

1. ストックの省力育苗実証試験に係る検討会を開催

8月9日、JA紀南すさみ支所において、JA紀南営農指導員、農業試験場研究員、普及指導員ら11名が出席し、ストックの省力育苗の普及に向けた検討会を開催した。

西牟婁管内のストックの生産者は10戸、栽培面積は135aで、近年は横ばい傾向にある。

ストックの慣行育苗では、育苗床への播種後ポットで仮植育苗を行っており、育苗にかかる労力負担が大きいため、育苗の省力化に向け、セルトレイ育苗による仮植作業省略の検討をこれまでも重ねてきた。

今回は、令和5年作の状況、現地試験の結果や育苗条件の試験結果について情報共有し、意見交換を行った。セルトレイ育苗を行うことで、育苗の省力化だけでなく、切り花品質も保持できることが確認できた。また、今年度の実証試験の実施にあたっての検討や八重鑑別の省力化の検討も行った。

今後、生産者を交えた研修会を開催し、ストックの省力育苗技術の普及を図っていく。



検討会の様子

Ⅶ 東牟婁振興局

1. 重点プロジェクト【いちご産地の維持活性化やる気のある産地づくり】～いちご育苗ほ場現地巡回を実施～

8月5日、那智勝浦町苺生産組合（会長：松出真紀氏）は、いちご「まりひめ」の栽培技術向上を図るため、育苗ほ場現地巡回を行った。

当日は、生産者12名、JAみくまの職員1名および農業水産振興課2名が参加した。

各育苗ほ場を巡回し、生産者同士でかん水頻度や施肥、遮光、葉かきの仕方等の育苗管理について意見交換が行われた。

巡回後は、JAみくまの営農経済センター笹平営農指導員から出荷物の安全・安心を目的に、農薬の適正使用や生産履歴表の変更点について説明した。

今後は9月に花芽検鏡を行い、その結果を基に各生産者は適期定植に取り組む。

当課では、今後も関係機関と連携しながら、同生産組合の活動を支援していく。



育苗ほ場現地巡回

普及活動現地情報 発行・編集

| | | |
|----------------------|-----------------|-----------------|
| 和歌山県農林水産部経営支援課 | TEL073-441-2931 | FAX073-424-0470 |
| 海草振興局農林水産振興部農業水産振興課 | TEL073-441-3377 | FAX073-441-3476 |
| 那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課 | TEL0736-61-0025 | FAX0736-61-1514 |
| 伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課 | TEL0736-33-4930 | FAX0736-33-4919 |
| 有田振興局農林水産振興部農業水産振興課 | TEL0737-64-1273 | FAX0736-64-1217 |
| 日高振興局農林水産振興部農業水産振興課 | TEL0738-24-2930 | FAX0738-24-2901 |
| 西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課 | TEL0739-26-7941 | FAX0739-26-7945 |
| 東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課 | TEL0735-21-9632 | FAX0735-21-9642 |
| 和歌山県農林大学校 | TEL0736-22-2203 | FAX0736-22-7402 |
| 和歌山県農林大学校就農支援センター | TEL0738-23-3488 | FAX0738-23-3489 |